令和３年度　特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス　事業報告

事業所名	水分	活動	排泄	食事
特養　２階 ユニット１	意思確認し、飲める量を飲んでいただけた。提供した飲み物が、あまり進んでいない様なら、好きな物を飲んでいただき飲める量を摂取できた。また、牛乳のみだと進みが悪かった。砂糖を入れ温めたら、進みが良くなった。新しく得た情報を、共有することができ、「どうすれば楽しんで飲んでいただけるか」と考えるきっかけになった。	平日は、短い時間だが、唄ったり、手を動かす簡単なレクリエーションをできた。しかし、継続できない時もあった。時間に関係なく、少しの時間に歌を唄う等のことができた。コロナ禍であるが、人がいない場所への外出も数回であるができ、喜ばれていた。	全利用者様、最低2回/日、トイレでの排泄ができた。福祉用具（スカイリフト）の使用により、安全に便座に長く座ることができ、排便に繋がった。利用者様によって、排泄の時間を考え対応を変更できた。	義歯がゆるい利用者様には、接着剤を使用し、咀嚼できるようにしている。体調や食事の進む具合で、食事形態を変更している。意思確認できる利用者様には、無理せず、食べれる量のみ召し上がっていただけた。
特養　２階 ユニット２	ご利用者様に選択していただくメニュー表も作成したが、口頭にて好みの飲み物や温冷を確認し、個々の希望に添った物を提供できた。ご利用者様の体調を見て適切なタイミングや覚醒状態の良い起床・離床時の水分提供に努めることで、負担なく自然に水分を摂っていただくことができた。結果として全利用者様の水分摂取量の安定・維持に繋がった。	予めレクリエーションの時間を決めることで週に２回以上継続して実施できた。体操・歌・カルタ・ことわざ・しりとり等身体だけでなく脳トレも取り入れるなどご利用者様に楽しんでいただける内容に努めた。ご利用者様からの反応もよく、活動増・気分転換に繋がった。今後は個別レクにも取り組んでいきたい。	毎月のミーティングで個々の水分量の把握と排便状況の振り返りを行い、スタッフ間の情報共有を行った。下剤についても定期的に見直し適切な使用ができた。今後は、下痢やパット内排便の改善とご利用者様が負担なく自然排便できるよう水分や活動目標と合わせて継続していきたい。	定期的に食事形態の見直しを行うことと食事姿勢に注意することで安全且つご利用者様の状態に応じた食事提供に努めた。看護師の協力により誤嚥・窒息事故時の対応について全スタッフ学習も行った。今後も安全な食事介助とご利用者様に楽しんでいただける食事提供に努めたい。
特養　３階 ユニット３	個々の嗜好や水分量を把握し、水分補給を行うことができた。また、嚥下状態に合わせとろみを活用し、安全に摂取して頂けた。しかし、体調不良の方に対してや本人様の拒否があった場合には摂取量が少なくなる傾向があるので、声かけや誘導の工夫がもっと必要であると感じた。	ご利用者様全体としてのお誕生日会やお寿司パーティ等は実施することができた。また、午後からの時間を有効活用し、おやつ作りをし提供することができた。しかし、個別レクやご利用者様1人ひとりとゆっくり関わる時間を設けることはできず、定着化という点についても達成することはできなかった。	ご利用者様の状態を把握し、その都度パット交換やトイレ誘導の時間を見直し対応できた。また、使用するパットの種類についても、職員間で情報共有し見直し・変更することができた。しかし、パット内排尿もまだまだあるので、排泄パターン等の把握をもっと細かくするべきだった。	個々の嚥下状態やADLの変化に合わせた食事形態への変更や本人様が使いやすい食器やスプーン・フォークへの変更を随時行うことができた。しかし、口腔マッサージは『知識がない・不安である・時間がない』等の理由から定着して行うことができなかった。MTGで勉強会などを実施すれば良かったと思う。
特養　３階 ユニット４	季節別の水分摂取量表を年4回作成して、個々に応じた水分摂取を行う事ができた。毎月の平均水分量もMTGで周知し、少なくなっている人の対応として、ゼリーの追加提供。好みのもの提供して改善に努める事ができた。引き続き、個々の適正水分摂取を促していきたい。	全員でのレクリエーションをする機会が少なかった。個々のボール投げ、手すりでの立位訓練、歩行訓練等のADL向上のためのレクレーションの工夫が出来た。計画的なレク（体操や歌）などを断続して行うべく月単位でレク活動の計画をしていきたい	排泄シートを作成し、生活リズムの中で、定時誘導の排泄が出来ている。引き続き、薬剤を使わず、トイレ排泄が継続出来るよう取り組んでいきたい。	ご利用者様の食事形態の変更して、安全に摂取して頂けた。毎月2回の食事、おやつレクを通してご利用者様の嗜好にあう物の提供ができた。来年度は、オーブンレンジを購入したので、手作りおやつ回数を増やしたい。
特養　４階	ご利用者様の体調・好み（夏・冬に関わらず温度や種類を確認）に合わせて提供した。に応じた目標を情報共有しケアの統一もできた。１日1,000mlを目安に水分補給できた。体調不良等により水分補給の難しい方にはジュースや補助食品を活用しできるだけ摂取を目指した。	前期はレクリエーションや生活リハビリの時間確保、スタッフ配置ができなかったが後期は1日１０分の体操を行える日を持てた。しかしながら口腔体操と体を動かすレクリエーションは実施できなかった。トイレ内で立位を取っていただく事とパズル・塗り絵等のレクリエーションはできた。	スカイリフト使用や２人介助でトイレでの排泄が出来ている。ご利用者様の排泄パターンについてミーティングで話し合い情報共有しパットの検討も行いケアの統一もできた。排便パターンが乱れた時はこまめに水分や食物繊維を提供し、トイレ内で腹圧をかける取組みをすることで排便を促した。	飲み込みの確認不足防止のため日頃からご利用者様の状態観察を行い変化に気付けるよう心がけた事と体調不良時には無理な介助を行わず栄養補助食品やプリンなどを提供することで安心・安全な食事支援に繋がった。楽しく食事する環境作りには至らなかった。
ショート	ご利用者様の目標とする水分量を把握し、目標水分量をほぼ達成できた。あまり水分量が上がらないご利用者様には、こまめに水分摂取を行い、声かけや好きな飲み物を提供した。飲み物の種類も多くして個々の好みに合った物が提供できた。今後も楽しく無理のない水分摂取ができるように努めていきたい。	1日2回（午前と午後）、ﾃﾚﾋﾞ体操やリズム体操を取り入れ活動量の向上に繋がった。レクレーションは、脳活動の安定を保つために塗り絵、パズル、合唱、クイズ、工作等に取り組んだ。余暇活動（時間）の使い方や毎月の行事などを定着させ、楽しく安全に過ごす時間を増やして行きたい。	ご利用者様の排泄パターンを把握し対応する事により、失禁減少に繋がったが、まだ充分ではない。家庭での状況状態などの情報収集を行い、共有することを徹底したい。また、リハビリパンツのサイズも職員間での統一ができていないので確認実行したい。	食事前の換気、手指消毒、テーブル消毒の徹底は、実行できた。手作りおやつも毎日提供できた。今後も継続していきたい。おやつ作りに関しては、マンネリ化しないようにレパートリーを増やし安心安全な食について検討していきたい。また、食事前の口腔内体操を毎日実行できなかった。今後は、日課として取り入れていく。
デ　イ	対象利用者様の情報収集や目標摂取量設定に時間がかかったが、目標量摂取を目指し、無理のないようこまめに水分摂取できる機会を設け、声かけを行った。選ぶ楽しみをつくり、好みのものを注文して頂くことで、目標量がほぼ達成された。時間帯によっては摂取量が少ない時があるので、今後はレクや体操の途中で摂取したり、ご利用者様に季節を感じられる飲み物や昔ながらの飲み物の情報収集して、楽しみ、懐かしい気持ちになって無理なく水分摂取して頂けるよう支援していく。	ご利用者様からの要望で運動器具を取り入れたことで、レク以外でも個別運動の機会が増え、活動量の向上につながった。また、音楽やリズム感のある体操を取り入れ（棒体操、タップダンス、チューブ等）、バリエーション豊かにし、楽しんで参加して頂くことで笑顔も増えてきている。参加の少ないご利用者様もおられるため、今後は個々に応じた運動によりカを入れ、身体機能の維持、向上につながるよう工夫していく。	送迎時、ご家族様より排便状態の情報収集し、記録を行っていたが、記録の抜けがみられため、再度周知を行った。対象利用者様に水分摂取の声かけや個別体操、また腹部マッサージを行ったが、マッサージは拒否がみられ、腹圧もかかりづらいため、話をしてたくさん笑って頂くことで自然に腹圧がかかるケアを行った。２，３日間隔で自然排便があることがわかり、職員間で周知と対応ができた。排便があった際はご家族様に報告し、連携が継続できていた。	視力低下のみられる方には、色付き食器の使用、振戦がある方には、汁物がこぼれないようマグカップを使用した。また、むせこみある方には、ゆるめのとろみで対応することで頻度が減ってきている。その他、義歯の不具合や体調に応じて栄養士と連携し食事形態の変更をしたり、個々に応じたテーブルの高さの配慮、全方向から見守りできるよう職員配置を行うことで安心、安全な食事環境作りを行った。マスク着用の状態でも口腔体操ができるよう今後工夫していく必要がある。